

学校評議員からの提言（平成 29 年 2 月 20 日）

○学校評価の教職員の結果を見ると、7 番の「生徒の多くは、進んで学習に取り組んでいる」と 8 番の「生徒の多くは、自分の目標を持ち、自分を高めようと努力している」の評価が低い。1 番のように、「学校は、学校教育目標の達成に努めている」と言うのを見ると、教師が生徒に大きな期待をし、教育活動を行っているのに、成果が出ていないと感じ、きびしい指導につながっているのではないかと案じている。

○教師がどのように考え、生徒を指導しているのか、細かい行き違いでも保護者説明会を開いてはどうか。テレビ・新聞で報道されるような、大きな問題になってから開くのでは遅いと思う。

○保護者との行き違いが生じるのは、学校（教師）からの保護者への連絡が遅くなるからではないだろうか。

○保護者には、教師の発言（言葉）の「前後の状況（話し合いの流れ）」を確認したうえで、その発言（ことば）について考えていただきたい面もある。

○最近、1 年生の登校を見ていると 25 分前後に交差点を渡る生徒が一部出てきた。声掛けをするが、素直に反応せず、勤勉さをうかがえない。これは、3 年生の私立合格組？にも言えるようです。何かの折に指導をお願いしたい。

○若い先生だけではなく、学校の先生は「地域の方たちに見られている存在」ということを忘れないでほしい。その行動で評価は悪くもなれば、良くもなる。

○子育てには、「なぜ、なんで」という部分が大事だと思う。子供が叱られたのはなぜだろう。子供が叱られるようなことをしたのはなぜだろう。なんで、先生はそのような対応をとったのだろう。親や教師が分からないところを共有し、共通理解することが大事だと思う。

☆ 学校評価について、保護者アンケートの結果を踏まえて、学校評議員会で話し合いを持ち、評議員の方たちから提言をいただきました。今回いただいた保護者の皆様からのアンケートで生の声を掲載させていただきます。これらは学校への期待と捉えさせていただきます、より良い学校づくりに活用させていただきます。ありがとうございました。

志木市立宗岡第二中学校長 木村 実